

# まいつるパートⅡ

令和4年度 No.13 校長室だより

通算No.13(R4. 10. 26)

霧島市立国分小学校長

## 読書のすすめ



朝夕、すっかり涼しくなり、夜の長さもかなり長くなってきました。今の時期は、スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋といわれるように、何をするにも絶好の季節だと考えます。

「読書の秋」ということで、明日27日(木)から11月9日(水)までは、「全国読書週間」で、本校では、「校内読書月間」(11月1日～30日)を定め、本への興味関心を深めさせ、自分から進んで意欲的に読書をしようとする態度を育てようと、様々な取組を実施することになっています。「読書は知識と創造力の泉である」といわれています。子どもたちには、ぜひ読書に親しんでもらいたいと思っています。

私は、小・中学生の頃、スポーツや遊びも大好きでしたが、けっこう本も好きで、よく読んでいました。(読書クラブに入っていたぐらいです。)特に好きな分類はSF小説や推理小説、歴史ものなどでした。私が本をよく読むようになったきっかけは、小学3年生の時に読んだ「大平原の名犬」という西部劇時代のアメリカを舞台にした、少年と犬との触れ合いを描いた本を読んだことからでした。内容の詳細は省きますが、感動的なお話で、涙を流しながら読んだ初めての本でした。それから本を読むことが好きになり、小学4年生からは年間150冊～200冊ぐらい読むほど本好きになりました。(ちなみに、この「大平原の名犬」は現在では絶版となり、県立図書館にも1冊だけしか蔵書がないようです。また、この本の出版年は、私の生まれた年と同じ1963年ということも奇遇です。機会があればまた読みたいと思っています。)

本校では、年間を通して「読書タイム(朝の読書)」(毎週水曜日の朝)を設定するなど、読書の生活化を促すとともに、読解力・想像力・思考力を伸ばそうと取り組んでいます。

11月からの「校内読書月間」では、①「おすすめの本カード」の作成・紹介(児童・教師)、②昼休みに図書委員会による「お話会」、③期間中20冊以上読んだ子への「しおりのプレゼント」、④多読者の「表彰」、⑤「読書ビンゴ」の実施、⑥全教師による「朝の読み聞かせ」の実施、⑦期間中は「平日3冊」「金曜日4冊」の貸し出しの実施、⑧図書委員会作成の「ポスター」掲示、⑨2年生を対象とした「中島晶子さんによる読み聞かせ」など、読書環境の充実に努めたいと思います。

「読書は心の栄養」とか、「読書で学力が上がる」などといわれるように、読書をすることは自分にとって大きな財産となります。読書を習慣化させるためには、まずは「読み聞かせ」から入るのが一番だといわれています。人類が言葉を持ち会話を始めたのが約5万年前だといわれています。文字を使うようになったのは約5千年前からで、その間は口による伝達(口承文化)だけだと考えると、まずは言葉による伝達(読み聞かせ)から始まるのがベストだと考えます。

ぜひ、この秋の夜長を家族で読書に親しむ時期にしてほしいと思います。



### お知らせ・お願い

先日の運動会では、テントの片付け等ご協力いただき、本当にありがとうございました。今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

11月1日(火)～7日(月)の平日9:30～15:00(給食時間除く)は、いわゆる「県民週間」として、学校自由参観となっています。ぜひ、子どもたちの様子をご覧ください。

学校教育目標「胸を張って堂々と生きる」 青少年赤十字の目標「気づき・考え・実行する」